

「子どもは群れて育つ」

校長 高田 晶子

梅雨明けが待ち遠しい今日この頃となりました。各地の豪雨災害の発生により被災地に早々に駆けつけ、支援活動に携わってくださっている方々に、敬意を表します。改めて命を守ることの大切さを感じています。

本校でも、梅雨期の生活と「3密」を避けた対策を油断しないように、継続して行っていきたいと思います。



さて、学校では、どのようにしたら「3密」を避けながら教育活動が進められるのか、工夫が続いています。まず取り掛かったのは、授業の再開でした。進度が速いと感じた生徒もいたようですが、補習や個別対応をしながら授業は順調に日常を取り戻してきました。給食の時間は、残念ながら楽しい交流の時間にはできず、黙々と食べる時間になっています。部活動では、3年生が継続して参加する姿を多く目にし、有意義な時間の流れを感じます。

ところが、日常を取り戻してきたかのようなのですが、1年生は「元中生になる」こと、2年生は「先輩になる」こと、3年生は「元中の顔になる」ことについて、課題も見えてきました。進級したけど・・・、新しいクラスになったけど・・・、団結や協力という活動がないので、形だけの集団生活になってしまっているという声を聴きました。3年生との対談で分かってきたことです。

子どもの心身の成長を研究する、日本体育大学教授・野井真吾氏は6月の記事で次のように述べています。

「子どもは本来、群れて育つもの。言ってみれば『3密』の中で成長する。いまは身体的な『密』を回避しつつ、精神的な『密』をどうつくり出すか問われている。」

生徒たちは、現状を本当によく感じとっています。大人は理由づけもできますし、情報を収集する力もありますが、良かれと思っていることが子どもたちの心に寄り添っているかという、当てはまらないこともあります。時に子どもたちの声に耳を傾け、一緒に工夫した活動を考えていくことが、今の学校生活には大切だと考えます。

体育的活動や生徒会中心に、「3密」を避けた状態でできる全校での取り組みの計画が進行中です。

ご報告です。本校の卒業生の方から、消毒用のアルコールを寄贈していただきました。また、PTAからの「3密」対策に向けた活動費の援助など頂きました。本当にありがとうございました。